

2026年1月発行

525-0027 草津市野村八丁目5番19号
サニーハイツピア105号室
TEL:077-598-0246 FAX:077-598-0888
E-mail modama.npo@triton.ocn.ne.jp

もだま通信

No. 75



新年のご挨拶

成年後見センターもだま
理事長 山田 容

新年のお慶びを申し上げます。

旧年中にいただきましたみなさまのご支援に厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年2025年は、団塊の世代がすべて後期高齢となる境目の年でした。日本の社会福祉制度は、家族のケアに大きく依存しており、高齢者のケアの負担は家族に大きくのしかかっています。団塊の世代は現在よりも婚姻率が高く、以降の世代よりは家族・親族による支えを受けやすい人が多いとは言えるでしょう。一方で家族がいない、あるいは例え家族がいたとしてもさまざまな理由で私的なケアが望めないケースもまれではありません。いわゆる「2025年問題」は、介護、医療、年金等を巡る課題が次の段階へ移行することへの懸念、心配でもありました。

しかしより深刻なのは、現在はおおむね50代前半の「団塊ジュニア世代」が高齢期に差し掛かっていく「2035年問題」ではないでしょうか。この世代の家族は構成員が少なく、私的ケアの担い手が特定の人に集中しがちで、就職氷河期世代とも重なって、将来の年金を含め経済的な課題を抱える人が少なくありません。また各種の不安定さを抱える50代の子を80代の親が支える「8050問題」は、やがて「9060問題」へと移行していきます。経済的基盤が弱いままで自身の老いが進み、頼りの親がいなくなる、あるいはケアが必要な親がいながら頼る子どもはいないという厳しい状況の急増はそう遠い未来ではありません。今後、年を追うごとに家族とケア、さらに社会保障を巡る状況は厳しくなります。その意味で「2025年問題」は、「2025年からの問題」でもあります。

当然のことながら、これから社会では身体的な介護ニーズに加えて、日常生活の維持や財産の管理に他者の支えを必要とする人たちが確実に増えています。家族を越えて他者が他者を支える、支え合う社会のあり方は、決して理想論でもきれい事でもなく、きわめて現実的な対処となります。そこでは成年後見制度がますます重要となり、もだまの役割もいっそう重要になることもまた確かです。

本年も、に変わらぬご支援、ご協力を願いいたします。

《令和7年度 高齢者・障がい者なんでも相談会 11/29》



今年度は、「コミュニティセンターやす」を会場に開催しました。事前予約と、当日枠も用意し、合わせて11件の相談がありました。ご本人やご親族から、ご自身の困り事や心配事、親亡きあとなどの子どもの生活の事、就労の事など様々なご相談をいただきました。

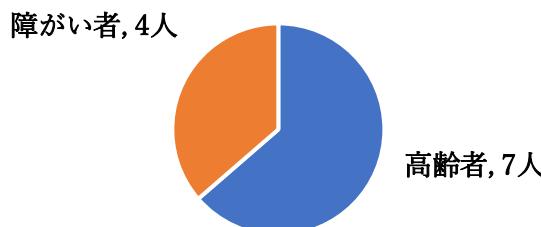
それぞれの相談に合った法律職、福祉関係者、病院関係者、行政など14団体22名の相談スタッフが丁寧に聞き取り対応いただきました。

父が亡くなり姉妹での相続トラブルの悩みや、親の年金を自分の財産運用にした時の相続の扱い、他府県にいる障害がある子どもを将来的には県内のGHに移したい事や、自身が管理している寺を解散することの手立てについて、就労での困り事など、多職種による相談会ならではの対応となりました。

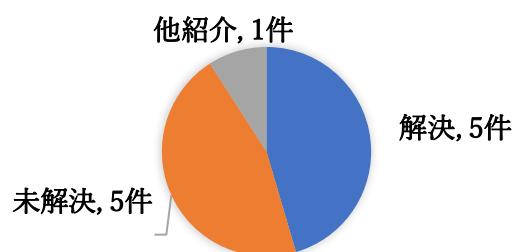
5割が未解決となりましたが、色々なことが相談できてよかったです、具体的な解決にはならなかったが少しでも方向性を見出すことができた、相談窓口がたくさんあることがわかって心強く思ったなどの感想がありました。相談スタッフからは、色々な専門職との交流の機会があって良かったとの声がありました。



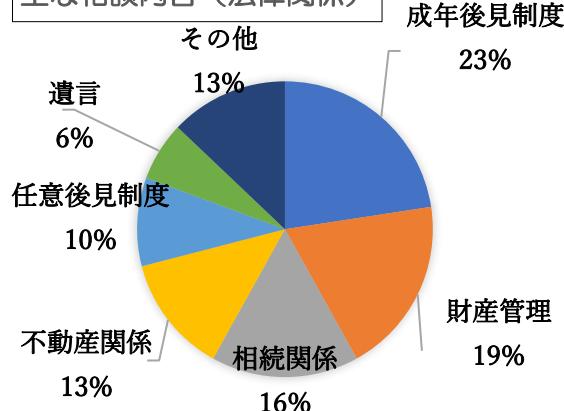
相談者数(人)



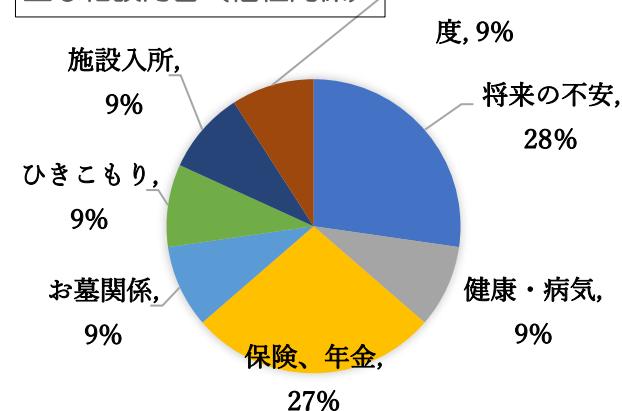
相談結果件数(件)



主な相談内容(法律関係)



主な相談内容(福祉関係)



～ご協力いただきました関係者の皆様ありがとうございました～

研修報告



« 滋賀県主催 意思決定支援研修会 12/2 »

印象に残った事例を紹介致します。講師の先生が受任された障害者支援施設入居中の重度知的障害で脳性麻痺による四肢麻痺の男性に対し、医師から胃ろう増設手術を勧められたというお話です。本人は食べる事が好きですが、脳性麻痺による嚥下障害があり誤嚥性肺炎になる可能性が高く、現在は施設で一時間以上かけて3度の食事を摂っておられるという事でした。

以前、誤嚥性肺炎が疑われる発熱で入院した際に、胃ろう手術を受けないと退院後施設での再受入れが難しいと言われ、医師は延命という観点からも胃ろうで栄養を確保した方がよいのではということで、本人への医療説明を省略し叔母の代諾により手術を予定されたが、当時担当だった講師が、何度も医師に怒られながら本人への説明を要求したそうです。何の説明も受けないまま眠らされ、目覚めたら胃に管を差し込まれていて大好きな食事やデザートを食べる事が出来ない体にされているなんておかしいと訴えられましたが医師からは、成年後見人には医療行為への同意権が無いんだから口出しをするなどと言われたそうです。

講師は、本人をよく知る支援者の前で本人へしっかりと胃ろうのメリット・デメリットを説明しノーナインのうなづきを全員で確認し、結局、手術は行われませんでした。退院後は別の医療系の施設へ移り、今では以前食べられなかったお肉を食べる挑戦をされているそうです

もし自分が同じような立場なら、心が折れてしまいそうだと思います。本人への説明も同意も無しに胃に穴を開ける行為はおかしいという思いは同じです。もし、このようなケースに遭遇した場合は、周りの支援者と相談し、本人の想いを想像し、その想いに寄り添った対応をしていきたいと思いました。

後見活動日誌 ☺

M 氏は、50代の男性、一人暮らしで、療育手帳をお持ちで、物静かで穏やかな方です。あまり変化を好まず、ご自分のペースで暮らしておられます。野球がお好きで、メジャーリーグの試合をテレビで観戦するのを楽しみにしておられます。

毎日5時頃に起きて、夕方5時頃までに就寝。毎週月曜日は病院へ歩いて行かれます。ヘルパーの訪問は週4日。一緒に掃除をしたり、料理をしたり。食事は、宅配弁当の曜日もありますが、ご自分の食べたいものを買ってきてもらったり、お好きなメニューをヘルパーにリクエストして一緒に調理されています。洋服や靴等欲しいものがあれば、移動支援のサービスを利用して、少し遠くのお店まで買いに行かれます。

昨年、離れて暮らしておられるお父様が亡くなられました。ご本人が精神的に不安定にならないか、支援者はずいぶん心配しましたが、大きく崩れることはありませんでした。葬儀に出席するか、納骨に立ち会うか等、すべてご自分で決められ、遠方の会場まで行き、葬儀の儀式もきちんとこなされました。

今後もご本人が望まれる生活、大きな変化がなくて落ち着いて過ごせる生活、そして、毎日の食事や、趣味、好きな事を自分で選択できる生活が続けられるよう、支援させていただこうと思っています。

成年後見制度に関する

《出張相談会》守山会場

今年度

最終!

成年後見制度に関心のある方や、制度の利用を考えておられる方などが身近な地域で相談を受けていただける相談会です。予約は必要ありません。当日、成年後見制度について話だけ聞いてみたい方もぜひお気軽にお越しください。

令和8年1月16日（金）13:30～16:00

守山市役所2F 防炎会議室



2028年 職員の抱負



健康に気をつけ
ようと思います
小林

心身共に健康に
すごす。
トキメキを忘れず
にすごしたい。
濱口

真夜中のおやつ
はほどほどに
北川

毎晩15分間の
エアロビクスを実
行いたします
奥井

慌てず確実に職務
遂行するように心掛けます
小竹

『四万十川を見
に行く』
竹村

背筋を伸ばし、大
きく深呼吸をして
一日を始めたいと
思います。
木村

体調管理を心掛け
笑顔で過ごせる
1年にしたい
森島

「もだま」の活動趣旨にご賛同いただける方を募集しています。
個人、団体を問わず皆様の入会を心よりお待ちいたしております。



●正会員年会費●

個人1口 3,000円
団体1口 10,000円

●賛助会員年会費●

個人1口 2,000円
団体1口 5,000円

※ご入会・ご支援の申込みは、所定の振込用紙がありますので事務局までご連絡下さい。

TEL:077-598-0246 FAX:077-598-0888 E-mail modama.npo@triton.ocn.ne.jp

～今年も、どうぞよろしくお願ひ申しあげます。（もだま職員一同）～

